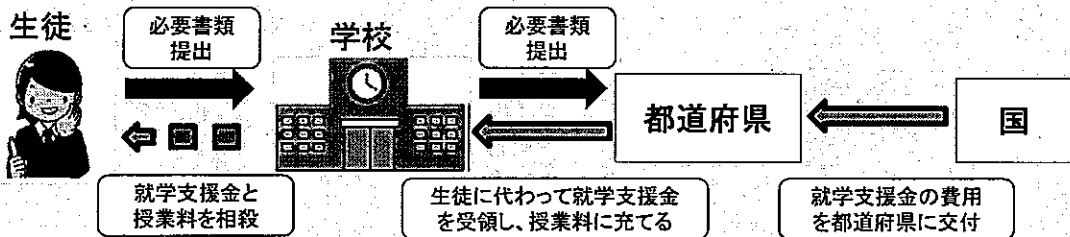


山梨県立学校授業料、入学料及び入学審査料条例の一部改正（概要）

高等学校等就学支援金制度と本県の状況

【概要】高等学校等の生徒が負担する授業料の一部を国が費用負担。国から都道府県に費用（就学支援金）が交付され、学校が生徒に代わって就学支援金を受領し、授業料に充てる。



【受給資格】高等学校等に在学する日本国内に住所を有する者。ただし、次のいずれかに該当する者は対象外。

- ・保護者等の所得税額が507,000円以上(年収目安約910万円以上)
- ・高等学校等（修業年限3年未満のものを除く）を卒業又は修了 など

【支給限度額と本県の県立高等学校授業料・履修単位】

※授業料の額が支給限度額に達しない場合には、授業料の額を限度として就学支援金を支給

	支給限度額	本県の授業料・履修単位	自己負担額(本県)
全日制 (定額授業料)	9,900円/月	9,900円/月 ※履修単位通算87～102単位	0円
定時制 (単位制授業料)	1,740円/単位 ※通算74、年間30単位まで	1,620円/単位 ※履修単位は通算74～76単位	3,240円(最大) ※1,620円×2単位
通信制 (単位制授業料)	336円/単位 ※通算74、年間30単位まで	310円/単位 ※履修単位は通算74～84単位	3,100円(最大) ※310円×10単位

本県において、全日制では生徒に自己負担が生じない一方、定時制及び通信制では生徒の自己負担が生じており、不均衡

対応 (条例改正)

- ・授業料の一部に自己負担が生じている定時制課程及び通信制課程の生徒について、自己負担分を減免の対象とすることにより不均衡を解消
- ・令和2年4月1日から施行する。
※令和2年度入学予定者に対して周知を図るため、9月議会において改正を行う。

山梨県立学校授業料、入学料及び入学審査料条例新旧対照表

新

旧

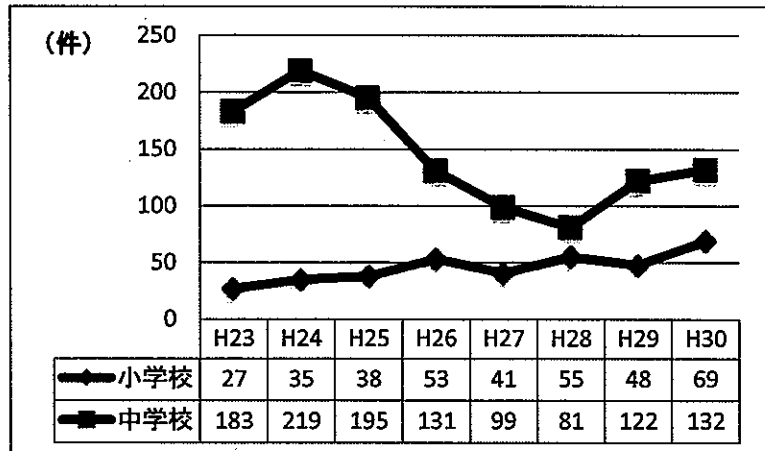
<p>第二条 略</p> <p>2・3 略</p> <p>4 高等学校（全日制の課程に限る。）に在学する者（高等学校等就学支援金の支給に関する法律（平成二十二年法律第十八号）第五条第一項に規定する受給権者（次項及び第五条の第二項において「受給権者」という。）を除く。）が当該高等学校に在学する年度の四月一日から起算して二十四日を超えない範囲内において教育委員会の指定する日までに同法第四条の認定の申請（次項において「認定申請」という。）をしたときは、第二項本文及び前項本文の規定にかかわらず、当該者の当該申請をした日の属する年度の四月から六月までの各月分の授業料は、その年度の七月二十日を納期限とする。</p> <p>5 略</p>	<p>第二条 略</p> <p>2・3 略</p> <p>4 高等学校（全日制の課程に限る。）に在学する者（高等学校等就学支援金の支給に関する法律（平成二十二年法律第十八号）第五条第一項に規定する受給権者（次項</p>
<p>第五条の二 天災その他特別の事情により修学困難と認められる生徒、留学を許可された生徒及び受給権者である生徒であつて教育委員会が定める定時制の課程又は通信制の課程に在学するものに対しては、期間を定めて授業料を減免することができる。</p> <p>2 略</p>	<p>第五条の二 天災その他特別の事情により修学困難と認められる生徒及び留学を許可された生徒</p> <p>に対しては、期間を定めて授業料を減免することができる。</p> <p>2 略</p>

平成30年度 生徒指導上の諸課題調査の経年比較 義務教育課

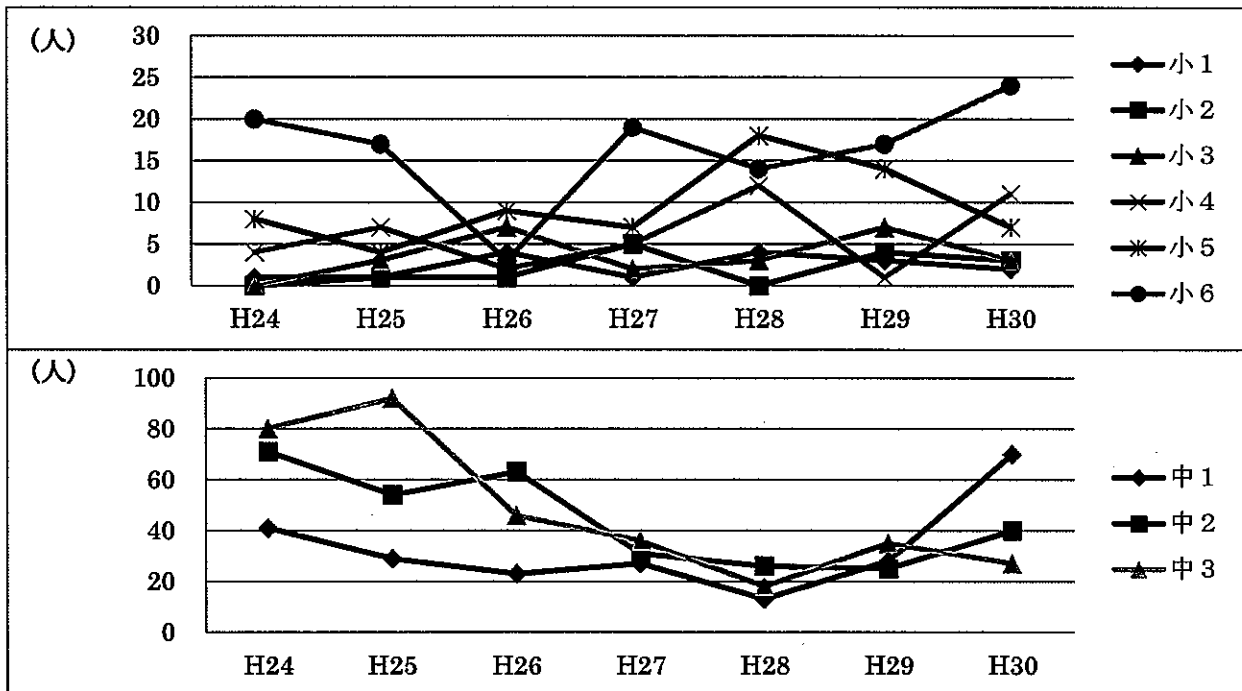
1 暴力行為の発生

(1) 経年変化

- ・前年度より、小学校11件増、中学校10件増である。
- ・特に中学校では平成24年度から半数以上減少してきたが、生徒間暴力の大幅な増加により、増加転じている。



(2) 学年別加害児童生徒数



暴力行為の主な事例

小学校

- ・特定の課題をもった男子児童らが複数回、興奮して、暴力行為を行ったり、お互いにふざけ合っていたところ、殴り合いのけんかとなったりした。
- ・児童同士が些細なことで殴り合いのけんかになり、止めに入った教師に対しても暴力をふるった。

中学校

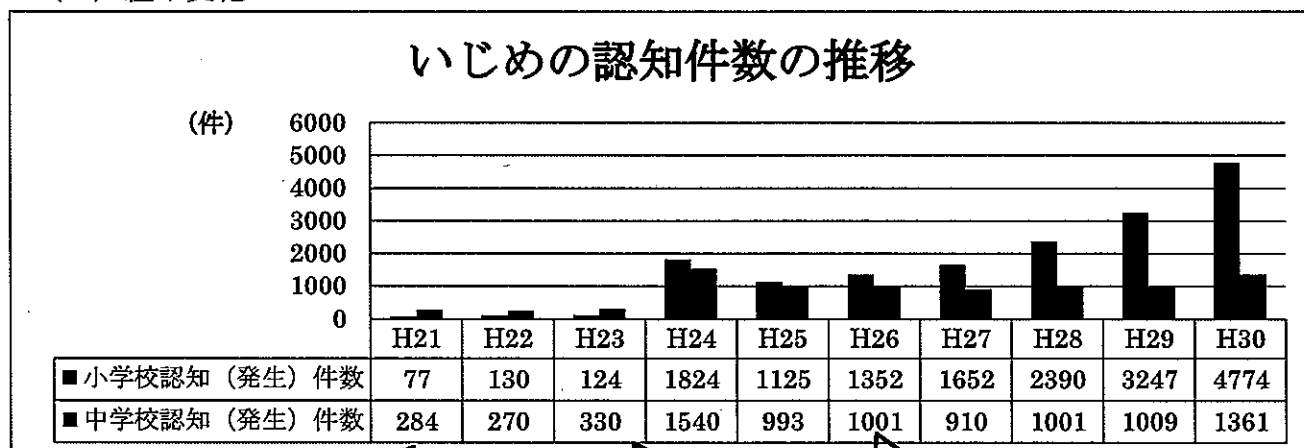
- ・1年生では、複数の小学校から中学校に入学し人間関係を構築していく中で、虚勢を張ったり、お互いのことを理解しきれなかったりすることで、生徒間暴力につながった。
- ・2, 3年生では、特定の課題を持つ生徒が他の生徒に対して、暴力行為を繰り返すケースが多い。

■暴力行為

全体として暴力行為が減少した要因は、特定の課題を持つ児童生徒以外は比較的落ち着いて生活をしてきたため、全体として暴力行為の発生件数は減少したと考えられる。学校では、全校体制で気持ちの落ち着かない児童生徒への対応（クールダウンの方法）等の工夫も含め、先生方の粘り強い取組により成果が出てきている。また、平素より行っている道徳教育や生徒指導、特別活動等をとおしての集団づくりや自尊感情の高揚を図る取組が浸透し、児童生徒が落ち着いて学校生活を送ることができているためであると考えられる。スクールカウンセラー等を活用した教育相談体制の充実も要因の一つとして考えられる。

2 いじめの認知件数

(1) 経年変化



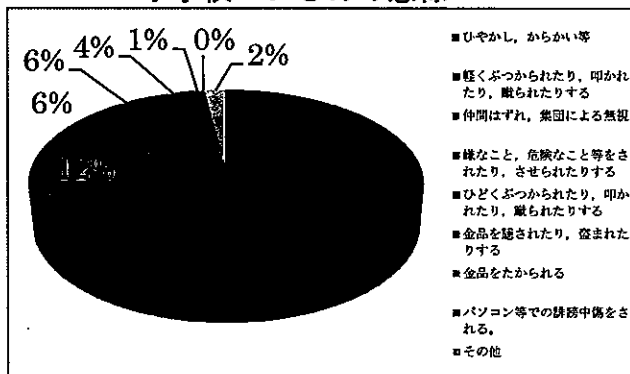
定義が変わる。
発生件数→認知件数

H23.10 大津いじめ

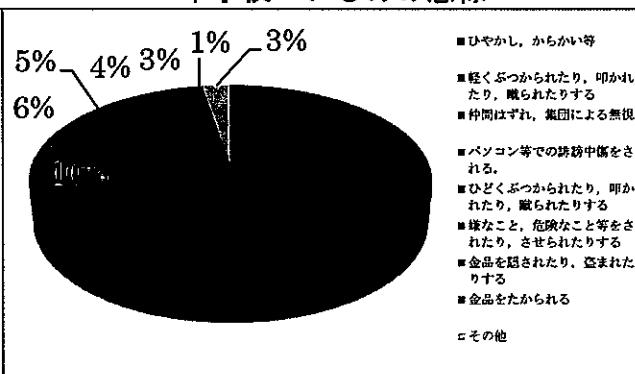
岩手県矢巾町の
事件を受け再調査

(2) いじめの態様

小学校 いじめの態様



中学校 いじめの態様



いじめの解消状況

- ・「解消しているもの」 小学校 4, 205件 (88.1%), 中学校1, 198件 (88.0%)
- ・「解消に向けて取組中」小学校 569件 (11.9%), 中学校 161件 (11.8%)
- ・「その他」 小学校 0件 (0.0%), 中学校 2件 (0.2%)

○ 平成30年度末までの調査回答では、「解消に向けて取組中」が小学校569件、中学校161件であったが、3ヶ月後の令和元年6月末で再調査を行った結果、解消率が小学校99.4%、中学校98.5%となり、10月の追跡調査では、解消率が小学校99.8%、中学校99.6%となった。

■いじめ

いじめの認知をすることが、いじめ対策、そして解消への第一歩であり、微細な時点での早期対応こそ、いじめ防止にもっとも効果があるということについて、繰り返し指導してきた。また、いじめ防止対策推進法の施行による学校いじめ防止基本方針の策定等により、教職員や児童生徒のいじめ問題に対する意識が高まり、些細なものでも、積極的認知を行い対応したため、認知件数が高い現状である。

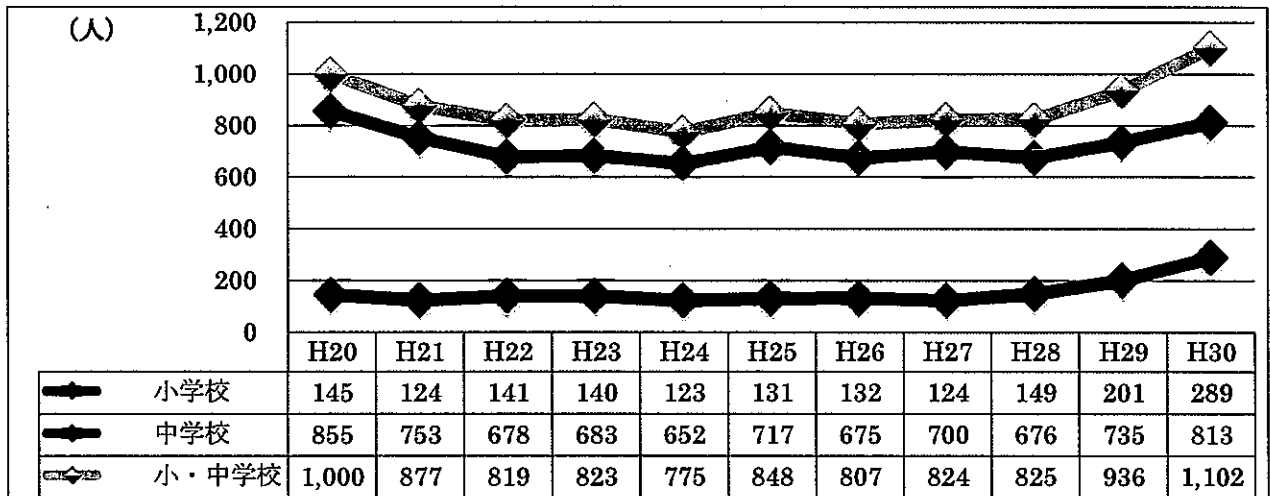
また、いじめアンケート調査の実施率も小・中学校とも100%であり、各学校で複数回のアンケートが実施されたり、方法も工夫されたりしたことで、児童生徒が答え易くなっていることも件数の増加要因である。

人間関係の希薄さなどからくる児童のコミュニケーション能力の不足により、相手の気持ちを考えられない児童が増加している。

今後も、いじめの起こらない学校づくりに力を入れ、発生数（認知件数）の減少に努めていく。

3 不登校者数

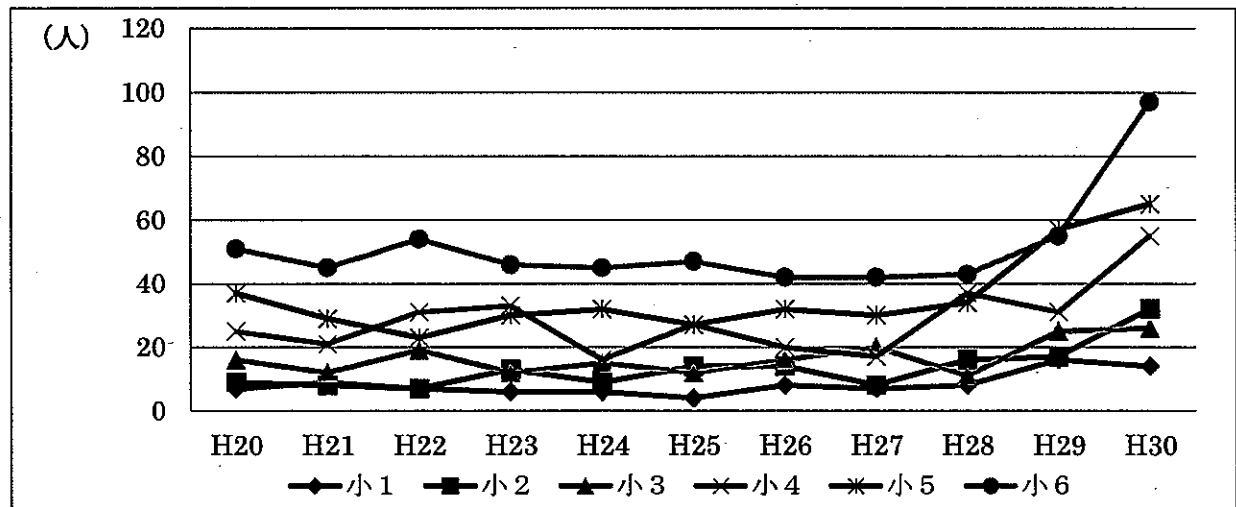
(1) 経年変化



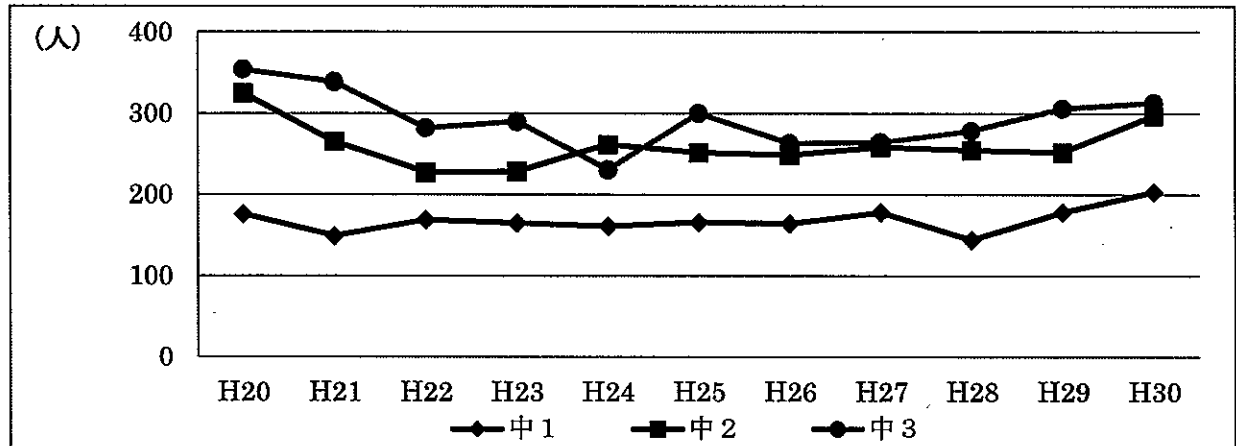
- ・小学校289人（内90日以上が141人、内出席日数10日以下29人、内出席日数0日11人）
- ・中学校813人（内90日以上が514人、内出席日数10日以下110人、内出席日数0日31人）

(2) 学年別不登校者数

小学校



中学校



不登校児童生徒の要因

小学校

小学校の増加の要因としては、学校生活・集団生活に適応できない児童や感情のコントロールがうまくできない児童の増加、家庭の教育力の低下等の複雑な要因に、学校の支援や対応が十分にできていない状況が伺える。

「本人に係る要因」で見ると、

「不安」では、「家庭に係る状況 (53.1%)」、「いじめを除く友人関係をめぐる問題 (20.4%)」が、「無気力」では、「家庭に係る状況 (63.2%)」、「学業の不振 (25.3%)」が、「学校における人間関係」では、「いじめを除く友人関係をめぐる問題 (52.5%)」が突出して多い。

「あそび・非行」では、「家庭に係る状況 (100.0%)」であり、以上の要因を考えると、小学校における家庭環境の急激な変化や複雑化が急速に進み、これらの家庭生活の変化の多くが、無気力や不安などの情緒的混乱、学業不振等、多方面にかなりの影響を及ぼすと考えられる。

中学校

中学校の増加の要因としては、継続生徒数の増加だけでなく、新たな不登校生徒が増加したことによるものが大きく、無気力や不安を要因としている生徒、家庭にかかる状況に起因する生徒に十分に対応できていない状況が伺える。

「本人に係る要因」で見ると、

「無気力」では、「家庭に係る状況 (41.9%)」、「学業の不振 (40.4%)」が、「不安」では、「いじめを除く友人関係をめぐる問題 (31.8%)」、「家庭に係る状況 (29.0%)」が、「学校における人間関係」では、「いじめを除く友人関係をめぐる問題 (64.7%)」が突出して多い。

「あそび・非行」では、「家庭に係る状況 (45.5%)」、「学業の不振 (27.3%)」が多い。

本県では、成績の不振、授業がわからない、試験が嫌い等「学業不振」が、「不登校のきっかけ」として全国値を上回っている状況であり、きっかけの上位である「いじめを除く友人関係をめぐる問題」と同等であり、3つの大きな要因の一つになっている。

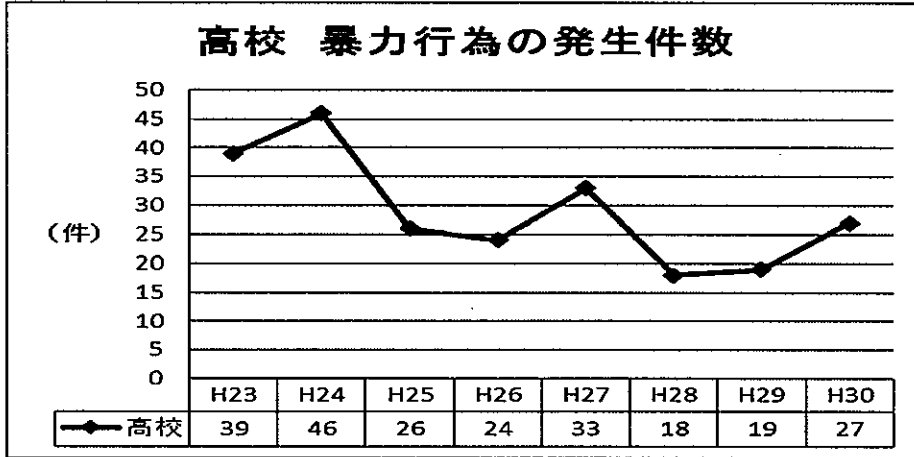
■不登校

不登校への取組については、常に危機意識を持つとともに、未然防止・早期対応が最大の対策であることをこれまで以上に啓発していく。また、中1ギャップの軽減のために、小・中連携をさらに推進するとともに、体験学習や家庭教育の充実を図る。さらに、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー活用事業の効果的活用を推進し、「教育相談体制の充実」等、指導体制づくりや環境づくりに重点的に取り組んでいく。

また、成績の不振、授業がわからない、試験が嫌い等の学業不振もきっかけの大きな要因となっているため、「学力向上総合対策事業」を中心とした、基礎学力の定着や学ぶ意欲を高める指導の工夫や達成感のある授業を行う等、魅力ある授業づくりにも更に取り組んでいく。

平成30年度 生徒指導上の諸課題調査の概要 高校教育課

1 暴力行為

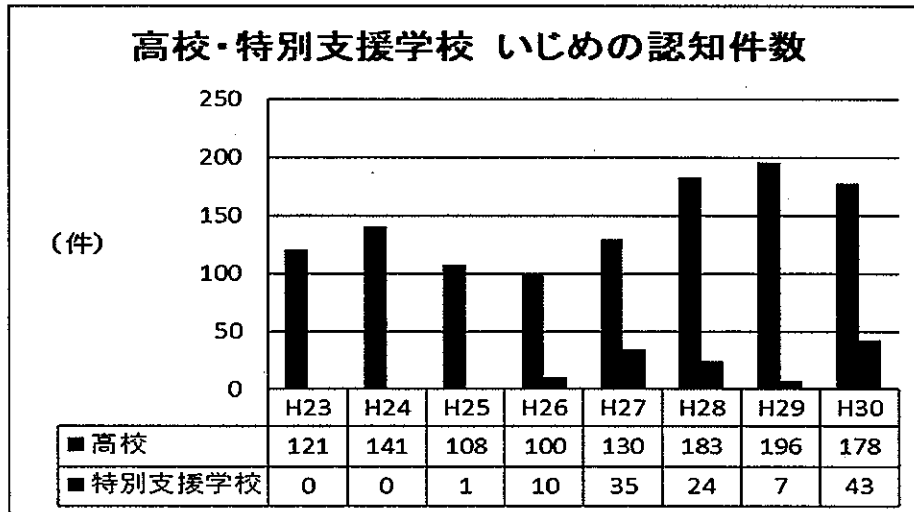


前年度に比べ8件の増加であるが、経年変化では、全体として横ばいで推移している。

各高校における生徒指導上の取組が、継続的に行っているが、衝動性が高く、自己統制できない生徒の増加が懸念されている。

2 いじめ

(1) 認知件数 高校・特別支援学校別

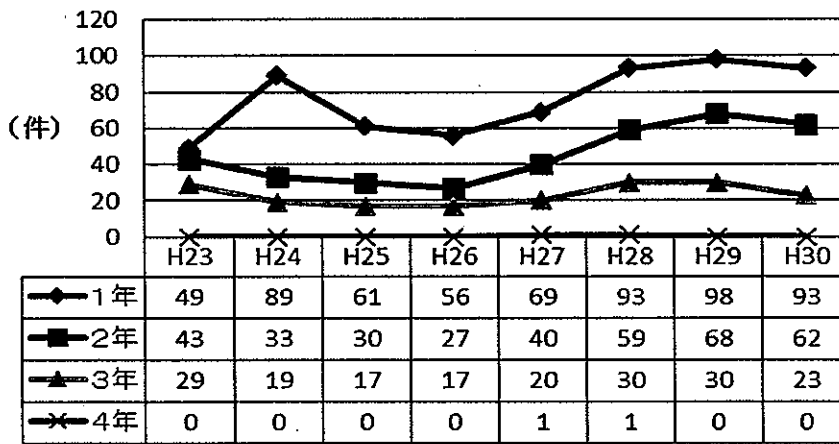


高校の認知件数は横ばいで推移している。いじめの認知に関して理解が進んできたと考える。

特別支援学校では、減少傾向が続いていたが増加に転じた。いじめに対する認識理解が進み、些細なものでも認知して対応している結果であると考えられる。

(2) 高校 学年別

高校 学年別いじめの認知件数

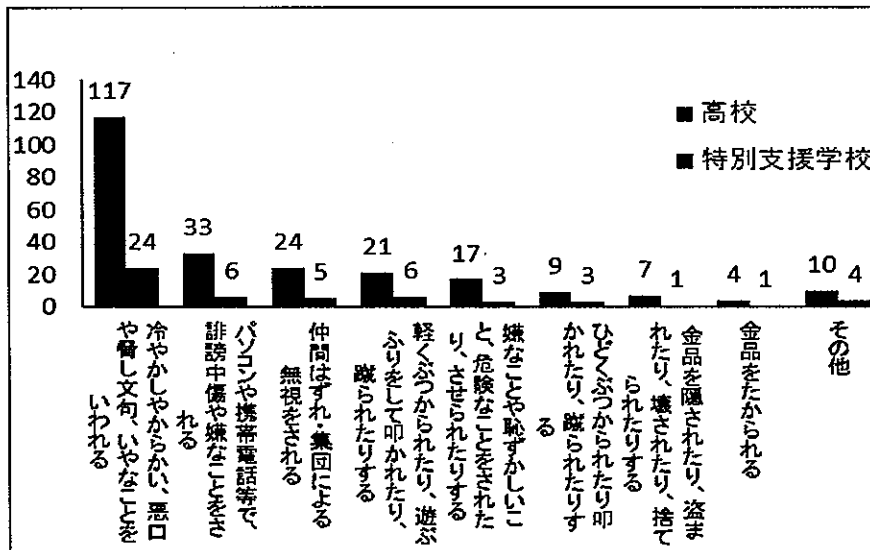


1年生が最も多く、学年が上がるとともに減少する状況である。

高校では広範囲な中学校から生徒が集まるため、1年生の時期は人間関係の構築に苦勞することが多いと考える。

(3)いじめの態様 高

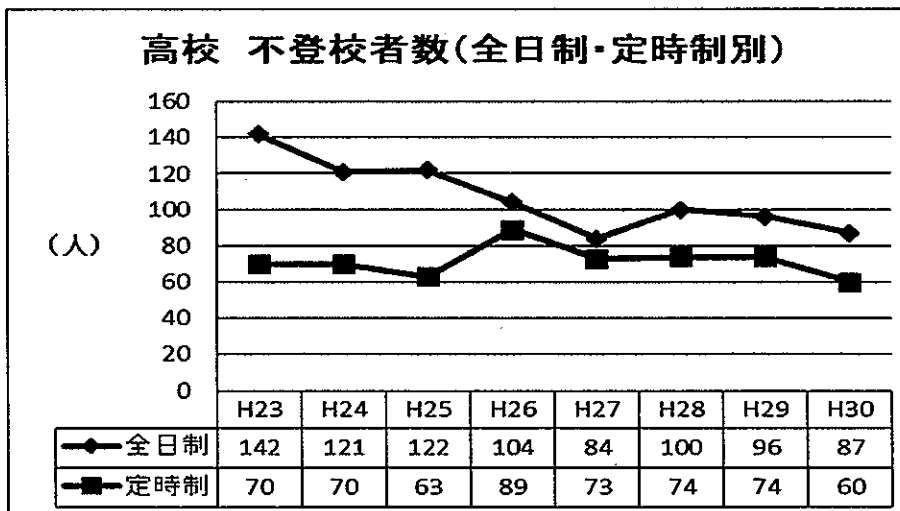
校・特別支援学校別



高校では、「冷やかしからい、悪口や脅し文句、いやなことをいわれる」が最も多い。「パソコンや携帯電話等で、誹謗中傷や嫌なことをされる」が増加している。「仲間はずれ、集団による無視をされる」が3番目に多い状況である。

3 不登校

(1) 高校 全日制・定時制別

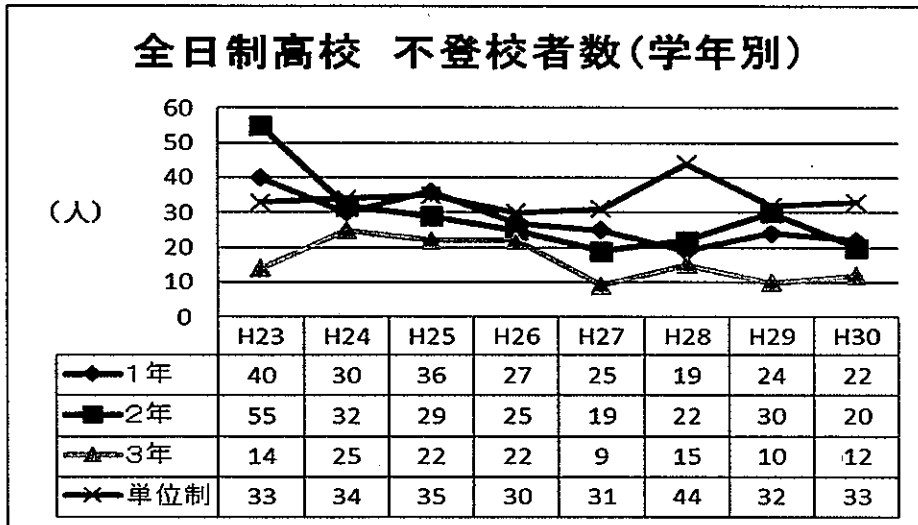


前年度に比べ、全日制は9名の微減、定時制は14名減となっている。ともに平成28年度以降減少傾向にあるが、全日制は100名前後、定時制は70名で推移している。S・C・SSWの派遣等、教育相談体制の整備を一層勸める必要があると考える。

全日制 87人 (内90日以上欠席が11人、内出席日数10日以下が1人、内出席日数0日が0人)

定時制 60人 (内90日以上欠席が1人、内出席日数10日以下が0人、内出席日数0日が0人)

(2) 全日制高校 学年別

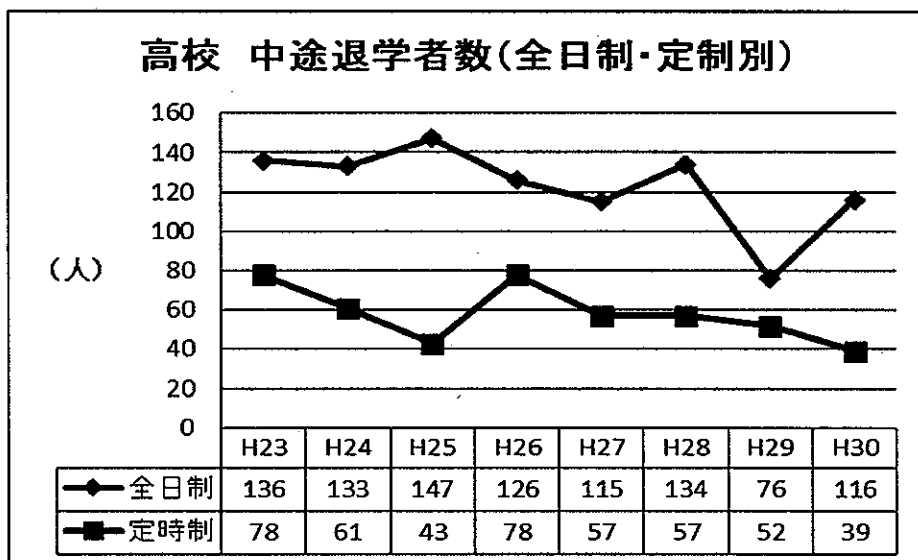


全体として、1、2年生が多く、3年生が最も少ない傾向は続いている。と単位制が少ないで減少

学校全体で、教育相談体制の整備を一層進める必要があると考える。

4 中途退学

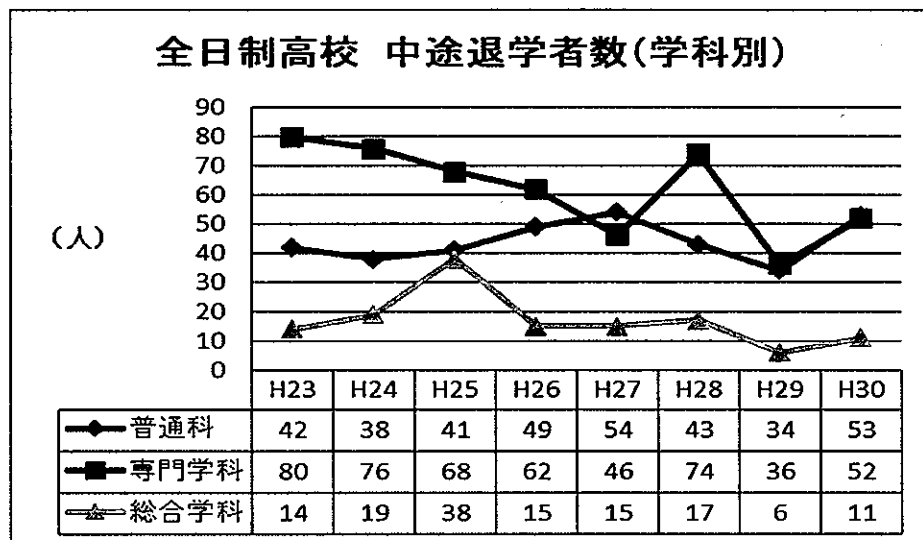
(1) 高校 全日制・定時制別



前年度に比べ、全日制では40名増加、定時制では13名減少であった。

特に全日制においては、平成26年度以降、120名前後で推移している。教育相談及び生徒指導上の取組を継続していく必要があると考える。

(2) 全日制高校 学科別

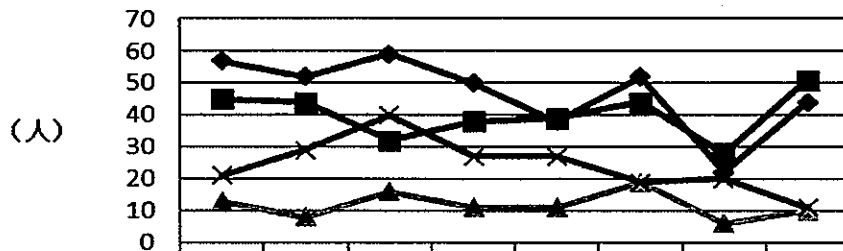


普通科、専門学科で多く、総合学科では少ない傾向が続いている。

人間関係がうまく保てないため中途退学する生徒の増加も見られる。教育相談及び生徒指導上の取組に努める必要がある。

(3) 全日制高校 学年別

全日制高校 中途退学者数(学年別)



(人)	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
◆1年	57	52	59	50	38	52	22	44
■2年	45	44	32	38	39	44	28	51
▲3年	13	8	16	11	11	19	6	10
×単位制	21	29	40	27	27	19	20	11

学年が上がるにつれて減少する傾向が続いていたが、昨年に引き続き2年生が多い。理由は、学校生活・学業不適應、進路変更となっている。

今後も中学校と情報の共有化を図り、入学後の不適應の事前防止に努める必要がある。

その他報告18 資料

令和元年度中学校卒業予定者の第1次進路希望調査(令和元年9月20日基準日)

全日制公立高校希望者

区	分	前年度 定員 (A)	入学希望者数			参考倍率 (B)/(A)	前年同期 倍率	参考前期 募集人員 (C)	前期募集希望者数			参考倍率 (D)/(C)	前年同期 倍率	
			男	女	計 (B)				男	女	計 (D)			
北 社	普 通	100	35	39	74	0.74	1.04	30	10	13	23	0.77	1.43	
	内 数	理数コース	30	6	6	12	0.40	0.80	9	1	3	4	0.44	0.67
		コースのみ	-	0	1	1	-	-	-	0	0	0	-	-
	総合学科	110	48	80	128	1.16	1.16	44	21	30	51	1.16	1.30	
	計	210	83	119	202	0.96	1.10	74	31	43	74	1.00	1.35	
韭 崎	普 通	200	138	129	267	1.34	1.25	60	59	57	116	1.93	1.48	
	文 理	30	32	12	44	1.47	1.77	9	9	6	15	1.67	1.17	
	計	230	170	141	311	1.35	1.31	69	68	63	131	1.90	1.43	
韭崎工業	工 業(一括募集)	170	134	15	149	0.88	0.68	59	50	8	58	0.98	0.71	
甲府第一	普 通	200	153	185	338	1.69	1.55	20	40	43	83	4.15	3.80	
	探 究	70	34	46	80	1.14	1.00	17	14	23	37	2.18	1.85	
	計	270	187	231	418	1.55	1.39	37	54	66	120	3.24	2.83	
甲府西	普 通	220	132	140	272	1.24	1.15	66	58	55	113	1.71	1.50	
甲府南	普 通	220	126	92	218	0.99	0.81	22	40	25	65	2.95	2.59	
	理 数	40	31	24	55	1.38	2.00	12	16	13	29	2.42	2.42	
	計	260	157	116	273	1.05	0.99	34	56	38	94	2.76	2.53	
甲府東	普 通	240	179	218	397	1.65	1.55	24	44	41	85	3.54	3.46	
	内 数	理数コース	40	43	26	69	1.73	1.53	4	12	7	19	4.75	3.50
		コースのみ	-	19	7	26	-	-	-	12	7	19	-	-
甲府工業	機 械	80	73	3	76	0.95	1.21	40	40	2	42	1.05	1.60	
	電 気	75	70	5	75	1.00	1.05	37	39	3	42	1.14	1.32	
	建 築	40	42	13	55	1.38	2.25	20	19	10	29	1.45	2.25	
	土 木	40	24	1	25	0.63	1.08	20	14	1	15	0.75	1.15	
	電 子	40	64	3	67	1.68	1.60	20	34	2	36	1.80	1.35	
	計	275	273	25	298	1.08	1.36	137	146	18	164	1.20	1.52	
甲府城西	総合学科	250	130	201	331	1.32	1.38	100	63	79	142	1.42	1.43	
甲府昭和	普 通	240	164	193	357	1.49	1.60	36	39	60	99	2.75	2.75	
農 林	システム園芸	30	18	17	35	1.17	1.10	15	5	6	11	0.73	0.80	
	森林科学	30	10	5	15	0.50	0.97	15	1	1	2	0.13	0.67	
	環境土木	30	18	1	19	0.63	0.73	15	9	0	9	0.60	0.40	
	造園緑地	30	12	6	18	0.60	0.37	15	3	3	6	0.40	0.13	
	食品科学	30	25	25	50	1.67	1.03	15	7	7	14	0.93	0.53	
	計	150	83	54	137	0.91	0.84	75	25	17	42	0.56	0.51	
巨 摩	普 通	220	86	81	167	0.76	0.89	88	37	47	84	0.95	1.24	
	内 数	理数創造コース	40	19	8	27	0.68	0.80	16	12	7	19	1.19	1.06
		コースのみ	-	2	1	3	-	-	-	2	0	2	-	-
白 根	普 通	130	48	71	119	0.92	0.62	52	24	25	49	0.94	0.67	
青 洲 (★)	普 通	140	86	93	179	1.28	1.09	56	31	28	59	1.05	1.02	
	工 業(一括募集)	60	42	2	44	0.73	0.19	24	20	2	22	0.92	0.50	
	商 業(一括募集)	80	17	52	69	0.86	0.63	32	8	22	30	0.94	0.69	
	計	280	145	147	292	1.04	0.73	112	59	52	111	0.99	0.86	
身 延	総合学科	80	25	13	38	0.48	0.76	40	13	6	19	0.48	0.93	

区 分		前年度 定員 (A)	入学希望者数			参考倍率 (B)/(A)	前年同期 倍 率	参考前期 募集人員 (C)	前期募集希望者数			参考倍率 (D)/(C)	前年同期 倍 率
学 校 名	学 科(コース)名		男	女	計 (B)				男	女	計 (D)		
苗 吹	普 通	120	48	50	98	0.82	0.95	36	15	14	29	0.81	1.17
	食品化学	30	16	15	31	1.03	1.00	15	10	6	16	1.07	0.80
	果樹園芸	30	16	6	22	0.73	0.80	15	5	3	8	0.53	0.47
	総合学科	90	44	56	100	1.11	1.14	45	26	34	60	1.33	1.22
	計	270	124	127	251	0.93	1.00	111	56	57	113	1.02	1.05
日 川	普 通	220	153	128	281	1.28	1.13	77	89	51	140	1.82	1.51
山 梨	普 通	170	47	71	118	0.69	0.89	51	16	26	42	0.82	1.12
塩 山	普 通	90	33	36	69	0.77	1.01	27	5	12	17	0.63	1.04
	内 英数コース	30	1	2	3	0.10	0.13	9	0	1	1	0.11	0.11
	数 コースのみ	-	0	2	2	-	-	-	0	1	1	-	-
	商 業(一括募集)	60	5	7	12	0.20	0.27	18	4	5	9	0.50	0.28
	計	150	38	43	81	0.54	0.71	45	9	17	26	0.58	0.73
都 留	普 通	220	106	101	207	0.94	1.14	44	21	25	46	1.05	1.32
上野原	総合学科	130	38	45	83	0.64	0.60	26	3	15	18	0.69	0.69
都留興譲館	普 通	100	33	62	95	0.95	0.77	30	7	14	21	0.70	0.64
	英語理数	25	6	10	16	0.64	0.48	7	1	4	5	0.71	0.57
	工 業(一括募集)	120	61	8	69	0.58	0.52	42	22	2	24	0.57	0.43
	計	245	100	80	180	0.73	0.63	79	30	20	50	0.63	0.53
吉 田	普 通	220	131	136	267	1.21	1.25	44	31	37	68	1.55	1.61
	理 数	40	32	26	58	1.45	1.28	6	6	7	13	2.17	3.17
	計	260	163	162	325	1.25	1.25	50	37	44	81	1.62	1.80
富士北稜	総合学科	260	104	116	220	0.85	0.95	91	33	43	76	0.84	0.90
富士河口湖	普 通	180	101	94	195	1.08	0.92	54	31	24	55	1.02	0.80
甲府商業	商 業	165	77	124	201	1.22	1.46	82	39	56	95	1.16	1.41
	情報処理	95	51	55	106	1.12	1.06	47	29	25	54	1.15	1.26
	計	260	128	179	307	1.18	1.32	129	68	81	149	1.16	1.36
26校計		5,590	3,098	2,911	6,009	1.07	1.07	1,760	1,160	1,021	2,181	1.24	1.26
甲 陵	普 通	80	43	41	84	1.05	1.04	48	42	36	78	-	-
県 内 公 立 計		5,670	3,141	2,952	6,093	1.07	1.07						
県 外 公 立 計		-	24	27	51	-	-						

- ※「前年同期倍率」欄は、昨年度の第1次進路希望調査における倍率であり、「26校計」及び「県内公立計」は増穂商業高校、市川高校及び
 峡南高校の平成31年度入試における定員等を合わせて算出したもの
- ※「参考倍率」及び「前年同期倍率」については、小数点以下第三位を四捨五入
- ※「参考前期募集人員」欄の数は、「前年度定員(A)」に今年度の前期募集における各校で定める募集率を乗じて得た数であり、実際の
 募集人数とは異なる可能性があるため、あくまで参考値である。
- ※「内数」欄の「〇〇コース」は、普通科のうち同コースを希望した者の数、「コースのみ」欄は、この「〇〇コース」希望者のうち、
 コース指定に漏れた場合に当該高校の普通科を希望しない者の数
- ※ 韮崎工業高校は、全学科(電子機械科・電気科・情報技術科・環境化学科・システム工学科・制御工学科)を一括して募集
- ※ 塩山高校は、商業科二学科(商業科・情報ビジネス科)を一括して募集
- ※ 都留興譲館高校は、工業四学科(機械工学科・電子工学科・制御工学科・環境工学科)を一括して募集
- ※ 甲陵高校は、県立高校(甲府商業を含む)とは異なる独自方式による入試を実施する。また、同校の入学希望者数には甲陵中学校の
 生徒(内進生)を含み、前期募集希望者数には含まない。なお、同校の参考前期募集人員には県外からの募集を含むため、参考倍率
 及び前年同期倍率は算出しない。
- ★ 青洲高校の「前年度定員」及び「参考前期募集人員」は、平成31年度入試における普通科は市川高校(普通科・英語科)、工業科は峡南
 高校(工業科)、商業科は増穂商業高校(商業科・情報処理科)のもの
- ★ 青洲高校は、工業二学科(機械工学科、土木工学科)、商業二学科(ビジネス探究科、ビジネス情報科)を一括して募集

私立高校希望者

区 分	前年度 募集人員	希 望 者 数			参 考 率	前年同期 倍 率
		男	女	計		
県 内 私 立 計	2,298	328	362	690	0.30	0.31
県 外 私 立	-	51	41	92	-	(94)

※前年同期倍率欄の()は、前年同期の希望者数

定時制公立高校希望者

区 分		前年度 定 員	希 望 者 数			参 考 率	前年同期 倍 率		
学 校 名	学 科 名		男	女	計				
韭 崎	普 通	40	2	7	9	0.23	0.23		
甲府工業	工 業(一括募集)	120	7	0	7	0.06	0.04		
巨 摩	普 通	40	5	3	8	0.20	0.03		
山 梨	普 通	40	1	1	2	0.05	0.05		
都 留	普 通	40	1	3	4	0.10	0.05		
中 央	昼 間	普 通 (午前)	60	10	15	25	0.42	0.67	
		普 通 (午後)	60	6	11	17	0.28	0.47	
		情報経理	40	4	1	5	0.13	0.00	
		計	160	20	27	47	0.29	0.43	
	夜 間	普 通	20	4	2	6	0.30	0.35	
		情報経理	20	1	0	1	0.05	0.00	
		計	40	5	2	7	0.18	0.18	
	計		200	25	29	54	0.27	0.38	
	ひばりが丘	昼 間	普 通	30	7	11	18	0.60	0.43
			情報経理	30	0	1	1	0.03	0.03
計			60	7	12	19	0.32	0.23	
夜 間		普 通	30	1	0	1	0.03	0.03	
計		90	8	12	20	0.22	0.17		
県 内 定 時 制 計		570	49	55	104	0.18	0.19		
県 外 定 時 制 計		-	0	0	0	-	(2)		

※前年同期倍率欄の()は、前年同期の希望者数

※甲府工業高校は、全学科(機械科・電気科・建築科)を一括して募集

通信制高校希望者

区 分	前年度 定 員	希 望 者 数			参 考 率	前年同期 倍 率
		男	女	計		
中 央 通 信 制	200	10	9	19	0.10	0.14
県立中央高校以外の通信制	-	47	59	106	-	-
通 信 制 計	-	57	68	125	-	(120)

※前年同期倍率欄の()は、前年同期の希望者数

特別支援学校希望者

学 校 名	学 科	男	女	計	前年同期
盲学校	普通科	0	0	0	0
	保健医療科	0	0	0	0
ろう学校	普通科	0	0	0	0
甲府支援学校	普通科	0	0	0	1
あけぼの支援学校	普通科	0	0	0	1
わかば支援学校	普通科	6	7	13	12
やまびこ支援学校	普通科	0	0	0	6
ふじざくら支援学校	普通科	3	0	3	2
かえで支援学校	普通科	3	1	4	10
桃花台学園	産業技術科	24	9	33	31
山梨大学附属特別支援学校	普通科	0	1	1	1
県内特別支援学校計		36	18	54	64
県外特別支援学校計		0	0	0	0
合 計		36	18	54	64

入学希望者数における第2希望の状況

学校名	第2希望学科	男	女	計	前年同期
北 杜	普 通	16	26	42	50
	総合学科	14	19	33	56
韭 崎	普 通	28	10	38	39
	文 理	13	5	18	17
甲府第一	普 通	19	25	44	41
	探 究	6	5	11	15
甲 府 南	普 通	13	17	30	61
	理 数	4	2	6	3
青 洲	普 通	6	12	18	-
	工 業	18	8	26	-
	商 業	25	29	54	-
笛 吹	普 通	15	13	28	42
	総合学科	7	18	25	31
都留興讓館	普 通	15	6	21	17
	英語理数	1	3	4	4
	工業(一括募集)	16	10	26	30
吉 田	普 通	30	25	55	34
	理 数	8	9	17	11
合 計		254	242	496	477

全日制高校学科別希望者数 [県内公立・私立]

学科名	今 回		前 年 同 期	
	希望者	構成比	希望者	構成比
普通科	4,455	65.68	4,512	64.55
理数科	113	1.67	131	1.87
英語科	-	-	23	0.33
文理科	44	0.65	53	0.76
英語理数科	16	0.24	12	0.17
探究科	80	1.18	80	1.14
総合学科	900	13.27	981	14.03
美術デザイン	25	0.37	24	0.34
音楽科	10	0.15	8	0.11
航空科	2	0.03	6	0.09
農業科	190	2.80	180	2.58
工業科	560	8.26	565	8.08
商業科	388	5.72	415	5.94
計	6,783	100.00	6,990	100.00

※四捨五入のため、構成比の計は一致しないことがある。

全日制高校学科別希望者数 [県内公立]

学科名	入 学 希 望 者 数				前 期 募 集 希 望 者 数			
	今 回		前 年 同 期		今 回		前 年 同 期	
	希望者	構成比	希望者	構成比	希望者	構成比	希望者	構成比
普通科	2,779	45.61	2,923	46.80	836	37.67	911	39.97
普通科(単位制)	1,023	16.79	883	14.14	396	17.85	329	14.44
理数科	113	1.85	131	2.10	42	1.89	48	2.11
英語科	-	-	23	0.37	-	-	11	0.48
文理科	44	0.72	53	0.85	15	0.68	14	0.61
英語理数科	16	0.26	12	0.19	5	0.23	4	0.18
探究科	80	1.31	80	1.28	37	1.67	37	1.62
総合学科	900	14.77	981	15.71	366	16.49	391	17.16
農業科	190	3.12	180	2.88	66	2.97	57	2.50
工業科	560	9.19	565	9.05	268	12.08	272	11.94
商業科	388	6.37	415	6.64	188	8.47	205	9.00
計	6,093	100.00	6,246	100.00	2,219	100.00	2,279	100.00

※四捨五入のため、構成比の計は一致しないことがある。

※前期募集希望者数の希望者及び構成比については、今回及び前年同期ともに甲陵高校に甲陵中学校から進学を希望する生徒(内進生)を除いて算出した数である。

希望の高い学科(上位5位まで。倍率は対前年度定員)

入 学 希 望						前 期 募 集					
今 回			前 年 同 期			今 回			前 年 同 期		
学 校 名	学 科 名	倍 率	学 校 名	学 科 名	倍 率	学 校 名	学 科 名	倍 率	学 校 名	学 科 名	倍 率
甲府第一	普 通	1.69	甲府工業	建 築	2.25	甲府第一	普 通	4.15	甲府第一	普 通	3.80
甲府工業	電 子	1.68	甲府南	理 数	2.00	甲府東	普 通	3.54	甲府東	普 通	3.46
農林	食品科学	1.67	韭崎	文 理	1.77	甲府南	普 通	2.95	吉 田	理 数	3.17
甲府東	普 通	1.65	甲府工業	電 子	1.60	甲府昭和	普 通	2.75	甲府昭和	普 通	2.75
甲府昭和	普 通	1.49	甲府昭和	普 通	1.60	甲府南	理 数	2.42	甲府南	普 通	2.59